（別紙2）　　令和　7　年度　　作成日　令和 8 年 2 月 16 日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3590800185		
法人名	株式会社　エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム　装束門・みどりの家		
所在地	山口県岩国市装束町４丁目10-13		
自己評価作成日	令和 7 年 10 月 15 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3590800185-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山県岡山市北区岩井二丁目2ー18
訪問調査日	令和 7 年 11 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様にイキイキと生活して頂ける様、午前中体操やレクリエーションを行なったり、ウッドデッキに出て庭を眺めたり、お天気の良い日には個別対応にて散歩や買い物に出かけています。安心して過ごして頂ける様見守りを行いながらご参加頂いております。午後は居室に戻られ午睡されたり、テレビを見られたり、各々ゆったりお過ごし頂いています。また、洗濯物を畳んで頂くお手伝いお願いし、テーブルを拭いて頂いたり可能な限り出来る事をお手伝い頂き変化のある生活の提供をさせて頂きたく思っています。職員とも談話を行い一日の内、関わりを持つ様努めています。ケアでは主治医と連携してホームで看取りも行っています。職員研修も行います。近所の小学校や地域との交流があり、装束町で皆で支え合いながら運営しています。運営推進会議も近隣の多職種の方々が毎回参加して下さっており、ご近所からお野菜をお裾分け頂いたり、小学生が遊びに来てくれたり、地域の中に根差したホームとなってきている事を日々感じております。その事を継続できる様スタッフ一同邁進致したく思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

みどりの家グループの中で唯一の平屋作りとなっており、中庭を囲んで、お互いのユニットを見渡せる。夫婦の入居者がおられ、中庭を挟んでお互いのリビングから手を振り、リズムを身体で取り合い、お互いのコミュニケーションを深めていた。中庭のウッドデッキでは、夏には子ども用プールを使ってヨーヨー釣り、足を浸けて涼む。冬には2mの巨大なクリスマスツリーを飾り、職員の子どもたちがサンタさんとなり、プレゼントを手渡して季節感を楽しんでいる。今年から「ふれあいいきいきサロン」を始めたことで、地域との交流が深まり、初回は施設内見学をしたら、施設内を知って頂くきっかけとなった。理念は「笑顔で楽しく寄り添う介護」となっており、この言葉は職員全員で意見を出し合い、一人ひとりの意識の向上の決意に繋がっている。施設の周りには出掛ける場所が沢山あり、紅葉谷へ行ったり、蜂ヶ峰公園へ行ったりした。おやつ外出ではファミリーレストランに行き、神社に参ると顔馴染みなので、人数分のお餅を頂いた事でさらに縁が結ばれている。入居者は、洗濯物干し係、料理作り係、洗い物係がいて遣り甲斐が増している。歌を唄って楽しむ人やご夫婦が仲良くコミュニケーションを取り合う姿が、とても微笑ましかった。運営推進委員会の方々も積極的に協力して頂けるので、地域との協力や交流がさらに充実し易くなってきている。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	エポカケアサービスの理念を念頭に置いて、事業所として地域貢献や社会活動参加を目標に地域に密着出来る様に計画をしている。	理念は玄関、各フロアに掲示してある。グループホームの理念「笑顔で楽しく寄り添う介護」は職員で話し合い、多く意見が出た言葉を使って作られている。それによって一人ひとりの意識が高まり、ミーティングで毎回必ず確認することで、日々の介助に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年から地域の方々を対象としたいきいきサロンを開催してホームにも地域の方々に来て頂き交流を行い、散歩やお祭りなどにも参加して交流を深めている。	今年から地域の方々との交流を深める活動として「ふれあいいきいきサロン」の開催を始めた。グループホームの見学や認知症予防ゲームをして楽しんで頂き、更にどのようなところなのかを知ってもらうきっかけにもなっている。近所の神社で行われた神楽にも出掛け、入居者分のお餅を貰い、皆が大変喜んだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年から1年に2～3回程度ではあるが地域の方々を対象としたいきいきサロンの開催をしており、地域の民生委員の方と連携して認知症予防などに取り組んでいる。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の実施に伴い、その意義などを職員と共有し評価による結果と課題をご家族様などにも報告。課題も職員全員で取り組んだ。	外部評価でのステップアップの意見はすぐに取り入れた。今年から始めた「ふれあいいきいきサロン」はその評価を活かした取り組みである。それによって地域の方々との交流が多くなり、出掛ける際には、顔見知りとのふれあう場所が増えて、入居者にも喜ばれている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で入居者様やホームについての報告、それについてのご意見をミーティングなどで職員に共有し話し合い、改善に向けての取り組みを行っている。	参加者は篤志面接委員、民生委員、民生児童委員、岩国市議会議員、岩国地域包括支援センター、装束駐在所所長、入居者の家族、管理者。利用者状況、行事報告、ヒヤリハット、事故報告、研修報告を行っている。「事故後の対応策は、毎回変えて対応されておられるのでいいと思います」と意見を頂いていた。	
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議に参加して頂き、意見等を頂いている。また地域の方々との交流などの相談にも適切なアドバイスを頂いている。	窓口は、管理者か計画作成担当になっている。運営推進会議に市町村担当者が参加されているので、日頃から意見や相談に乗って頂ける関係性がとれている。今年から始めた「ふれあいいきいきサロン」でも沢山のアドバイスを頂けた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については会社の方針にも基づき、日中の玄関ドアの施錠は継続して行っておらず、又、毎月のミーティング時には定期的に研修を行い、拘束についての理解とケアの向上に努めている。	身体拘束委員会にて、身体拘束やスリーロックについて取り上げ、意識的な取り組みを行っている。その成果もあって、身体拘束を実施をしている実績はない。スピーチロックに関しては「ちょっと待って」、「動かないで」の言葉は遣わず、ちゃんと説明をするようにしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても毎月のミーティング時に定期的な研修を行い理解し、不適切なケアが行われていないかを職員同士で確認、改善の提案、早期対応が出来るような環境作りを行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用されている入居者様はいないが、ホーム内の研修時に組み入れて学べる機会を持ち、ご家族様などからの相談等にも対応出来るようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一緒に読み合わせを行い、丁寧に説明を行っている。必ず疑問点などを伺い、都度、納得されるまで説明し理解をして頂けるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している他に、各ユニットごとの直通電話に連絡を頂けるようお知らせをすると共に、頂いたご意見を運営推進会議等で報告を行い、助言等を運営に反映出来るようにしている。	今年から管理者から職員が担当することとした。それにより家族とのコミュニケーションや信頼関係が深まり、話や意見が聞きやすい関係になった。担当が対応するので、細かい状況報告や意見の反映が通りやすくなっている。計画書の説明時に、意見を聞く機会を設けており、玄関にもご意見箱を設置している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングやユニットごとのミーティング、申し送り時に意見交換などを行い、話し合い、運営に職員全員で取り組むようにしている。その他にも、管理者面談や本社顧問との面談もあり、意見や提案を聞く機会を設けている。	年に1回本社からの面接があり、アンケートを取り込んだ顧問との話し合いが行われている。普段からSNSを利用し、何かあればすぐに意見や相談が出来るシステムを設けている。月１回、全体ミーティングとフロアミーティングもあり、管理者は毎日の貴重な意見が飛び交う会話が、愚痴で終わらないよう心掛けている。	職員意見を聞き取り、解決策へ向かう工夫をしてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員は年1回の考課表を作成し、個人目標の設定や達成などを記入し、実績や努力を本社に報告している。また職員同士で相談や互いの意見交換、情報交換を通して知識などを学び合い、ケア向上ややりがいを持って仕事に取り組めるようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育には本社での新人研修の他にもチューター制度を取り入れて、働きやすいように取り組んでいる。また、毎月のミーティング時の研修などへの参加を勧めて個人のスキルアップを図っている。	新人教育は、本社での新人研修の他にもチューター制度を取り入れている。グループホームでは、職員に毎月の行事担当を分担することで、知識アップの育成に繋げている。責任感を持つことの大切さや理念にもある入居者や職員が一日笑顔で過ごせることを強く意識してもらう事を徹底している。	内部研修の機会を増やせるように、工夫をしてみてはいかがでしょうか。
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの事もあり機会が減ってはいたが、外部への研修への参加を勧めたり、他施設への見学、ZOOMを使用しての研修なども勧めてサービスの質の向上に取り組んでいる。市内の同系列のホームへのヘルプ職員として参加し他ホームの取り組みなどを体験出来るようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様にお会いし、担当ケアマネも含めてお話を伺い、ご本人様の想いを尊重したケアプラン作成、入居後も安心して過ごして頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	16と同様にご家族様の想いと要望をよく伺い、ご本人様のホームでの生活を一緒に支えて頂けるように信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様やご家族様の想いを伺い、必要とされている支援を適切に提供出来るように努めている。また以前からの習慣だった事の継続や、伺った事を参考にして支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様との関係において職員側の一方的な関係ではなく、ホームでの暮らしを共にする者同士、敬い支え合い、関わりを大切にするよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より意見や要望等に耳を傾け、ご本人様との良好な関係を保って頂く事を大切にしつつ、共に支えていく関係の構築にも努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様と交流のあった方々との関わりを大切にし、面会や電話、お手紙などその都度の対応を支援している。	面会には家族や近所の人、友人が来られる。個人で携帯電話を持っており、普段から連絡をしている方もいる。本人の希望で、法事に参加されたり、誕生日に家で祝ってもらったりした方もいる。書いた手紙をポストに投函することもある。グループホームでは、積極的に外出を計画しており、紅葉谷へ出掛ける予定である。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を職員が把握しており、会話がスムーズになるように間に入ったり、トラブルになりそうな時も間に入り未然に防げるような配慮を行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後された後も、ホームへお電話や相談を頂いたりして良好な関係を保っている。又、ご紹介なども頂いたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様おひとりおひとりの思いや希望に耳を傾け、少しでも多くの情報収集に努めている。またそれをひとつでも実現出来るようにご家族様や職員が話し合い、計画をしている。	一人ひとりの思いや希望に耳を傾けて、情報収集をしている。職員が入居者を巻き込みながら、雑談をすることで、意見の汲み取りを工夫している。テレビを見ながら話す会話に「○○食べたいねー」という話があれば、誕生日会の料理に出したり、「牛乳よりコーヒーが好き」と聞いたら、コーヒーを出したりして、喜ばれている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報収集の他にも、日常の会話の中からその方のこれまでの生活歴や馴染みの物、習慣や生活環境を把握し職員間で情報共有するように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で毎日、申し送りを行い、情報共有の努めている。また急な変化にも職員全員で早く対応が出来るようにユニットごとの連絡ノートの活用など現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様とご家族様には説明の際に要望や意見を伺い、職員にはミーティング時に意見交換を行いプランに反映するように努めている。何かあればその都度、その方に寄り添ったケアの考案と介護計画を作成している。	各ユニットのリーダーがカンファレンス時に、家族やドクター、看護師、薬剤師の意見を参考に、ケアプランの作成をしている。入居時に暫定プランを作成し、何もなければ認定時に見直している。更新時が分かりやすいように、事務所のホワイトボードで管理し、職員が一目瞭然となるよう表記を変更した。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在、タブレット端末を使用して生活記録を行っている。ケアプランに基づいた記録を行い、気付きや特記事項、申し送りにも活用しながら情報共有を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化に伴い、新しく発生する入居者様やご家族様のニーズに対応出来るように、ひとつの考えにとらわれず、職員全員で柔軟な姿勢や対応を心がけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以降、地域との関わりが少なくなっていたが、地域との関わりを大切にしながら少しずつ地域住民の方々との交流、地域行事への参加を再開、継続していく。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変時や体調不良等には往診や電話での指示など対応をして頂いており、ご家族様も安心しておられます。ご家族様への連絡はその都度、職員が毎月のお便りや電話でお知らせしている。緊急時など主治医より直接にご家族様へ連絡をされることもある。	かかりつけ医は、入居時に説明して、協力医に転医して頂いている。急変時や体調不良の際には、往診や電話で指示を頂き、対応がスムーズで家族も安心できる。緊急時は、主治医より直接、家族へ連絡されることもある。他科への受診は、基本家族が連れて行くが難しい場合は、施設で対応している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化やケアについての気付き、情報を職場内の看護師に伝え相談を行い都度、必要時に主治医に連絡を行うなど職員の不安軽減にもつなげている。また、主治医側の看護師へも直通ケータイで連絡が出来るようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は速やかにサマリーの作成を行い、情報提供に努めている。また入院中も管理者やケアマネ、他職員がご家族様や医師、病院関係者とも情報交換や相談などをこまめに行い、早期退院が出来るように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りや終末期、ご本人様がどうありたいかをお伺いし、ご家族様へもお伝えしている。ご家族様の意向も入居時に確認書を記入して頂き、都度、再確認をさせて頂いている。看取りの際は、ご家族様、医師と密に連絡を取り合い、状態に合ったケア提供を行っている。	入居時に「看取りに関する指針」や「看取りに関する確認事項」にて確認し、同意書を交わしている。1年ごとに家族への再確認の場を設けている。重度化した場合、直接ドクターから連絡をもらい、状態にあったケア提供していて、家族は安心して過ごせる環境にある。看取り時は、家族の要望により、居室にて一緒に過ごすことも可能である。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	事故防止と事故発生時の備えとして、定期的なホーム内研修で事故対応、応急救護について取り組んでいる。また、ヒヤリハット報告を日頃からあげて、事故防止に努めている。	研修はもちろん、起こった時には回覧にて、事故検討委員を開いて、今後の対応を話し合い、改善に努めている。ヒヤリハット報告を日頃から上げて、事故防止に努めている。地域包括支援センターの職員から「事故後の対応策は毎回変えて対応されておられるので、いいと思います。」との声も頂いている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震など災害時に地域での避難所になれるよう食料や備品の備蓄を本社と連携して進めている。また、自ホームとしての災害時マニュアルの作成も行っている。避難訓練等に運営推進会議のメンバーにも参加をして頂く等の地域連携にも努めている。	運営推進委員会議に参加されている人や消防署も交えて避難訓練を行っている。顔見知りなので、どのように避難していいかの確認が出来ている。グループホーム独自の災害時マニュアルを作り、それをもとに避難している。SNSを利用して近隣の職員がすぐに駆けつけれるように対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日のケア提供時に不適切なケアが行われていないかの自己チェックや、職員間での声かけ、定期的な研修で虐待防止などについて学び、ケアの向上に努めている。	年に1回接遇やプライバシー研修を行っている。オムツ交換時は、周りに配慮して、居室にて行っている。失敗時はプライドを保つような言葉を掛け、尊厳を損なわないようにしている。評価時も職員が「洗濯物干してくれますか」と入居者の目線に合わせて、丁寧に言葉をかけていた様子が、個人の存在への敬意が感じられた。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者様主体のケア提供を心掛けている。自己決定が出来るような関係作りと、生活環境作りに取り組みひとつでも多くの希望を聞き、実現出来るように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のコーヒータイムに入居者様と当日の職員が一緒にコーヒーを飲みながら談笑し、今日をどのように過ごしたいか希望をお伺いし、希望に添った支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服選びを一緒にしたり、定期的な理美容時にカットや髪染めを楽しんでおられる。また、ご家族様の持参されている化粧水などもお声掛けし使って頂いている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューやお誕生日や敬老の日などの特別な日も食べたいものの希望をお伺いし、状態に合った食事提供をすることを心掛けている。また、おひとりおひとりの好みや力を活かして一緒に調理や片付けも行っている。	食事中には、「美味しいですか」と聞くと、「美味しいよ」と元気よく返事が返ってきた。「箸の使い方が上手ですね」と言うと「ハハハ」と笑って嬉しそうな姿が見れた。ホットプレートを使ってお好み焼きをした時には、焼く人、おむすびを作る人と係を決めて、楽しく一緒に調理をした。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おひとりおひとりの体重や状態により適切な提供を心掛けている。食事量や水分量は毎食チェックし記録を行っている。体調不良や食事量、水分量の低下など医師への相談も行っている。入居者様に応じ、きざみ食やミキサー食、とろみ等の工夫をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝前だけでなく、食後に歯磨き、うがい、口腔スポンジによる口腔ケアを行い、義歯の方は就寝前には洗浄液への浸け置きも行っている。また、必要に応じて歯科受診等も行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おひとりおひとりの排泄について、間隔や傾向を把握し、適切な声掛けや誘導を行うことにより失敗を防ぎ、入居者様の尊厳を守れるよう支援を行っている。また、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	その人に合わせたタイミングで言葉掛けをしている。拒否される方へは、時間を変えて対応している。入居者のほうから「便所行こ」と職員へ声をかけ、トイレへと連れて行かれた方も見れた。グループホームでは、可能な限り、トイレでの排泄を支援しているので、率先してトイレに行く姿が見受けられた。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘への予防としてヨーグルトやオリゴ糖の摂取を試みている。また、水分摂取や毎日の体操、ストレッチにも留意している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、午前中の入浴が主とさせて頂いているが、その日の体調、希望などご本人様と相談させて頂いて時間をずらす等、配慮させて頂いている。また、強要はせずご本人様の想いを尊重するように努めている。	3日に1回、午前中に入浴となっている。その日の体調、希望に合わせて、本人と相談して対応している。入浴剤を使用して皮膚の乾燥を防ぐ工夫もしている。ゆず湯をして、季節を感じて頂いたり、歌を歌われたり、リラックスして入浴を楽しまれている。勤務体制に応じて、夜間入浴も可能としている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態や希望に応じて居室で休んで頂いたり臥床して頂く等、配慮している。夜間不眠の方へはじっくりお話を伺ったり、温かい飲み物の提供などを行っている。高齢化に伴い、ご本人様の生活スタイルに合わせた起床、就寝時間等を変更している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい処方のあった際は申し送りや伝達ノートで情報共有をしている。またミーティング時などで処方薬と症状について報告し合い共有している。往診時やそれ以外でもこまめに主治医やナースと症状の変化について報告、相談等を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様おひとりおひとりの生活歴や趣味、嗜好などを把握し役割としてお願いしたり、知識を教えて頂いたり、ハリのある生活を送って頂けるよう支援を行っている。洗濯物干しやたたみは毎日やって頂いている。	「洗濯物を干してくれますか」と職員が言葉掛けすると「うんうん」と頷いてウッドデッキに移り、ベンチに座ってタオルを一枚一枚丁寧に干していた。干し終わってリビングに帰ってきた姿は、にこやかな顔をしながらも誇らしげであった。職員が「ありがとうございました」と丁寧にお礼を言い、そのやり取りにとてもほっこりした。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナも以前より落ち着き、少しずつ外出支援も再開している。季節ごとのドライブや買い物に加え、近所の散歩やおやつ外出なども行い外出を楽しんで頂けるように支援している。	「今しか出る時ないよ」と言葉をかけて、外出するように促している。季節毎のドライブや買い物にも出掛けている。評価時も午後から紅葉谷へ出掛ける予定であった。５月には蜂ケ峰にバラを見に出掛けたり、おやつ外出としてファミリーレストランに出掛けたりしている。ウッドデッキでは、バーベキューをしたり、冬にはクリスマスツリーを飾って楽しんでいる。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームでのお金の所持はして頂かないようにしており、必要な物はご家族様と相談して立替という形で購入させて頂いている。外出支援での買い物時などはお金をお渡しして、支払いをして頂いたりすることもある。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にユニットごとのホームのスマートフォンの番号を教えて、会えない時もお話が出来るように支援している。また、お手紙を書かれる方は、書かれたものを一緒に郵便局やポストに投函しに行ったりしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の整理整頓はもちろん、玄関やフロアに季節の花を生けたり、季節ごとの壁飾りなどは入居者様も一緒に作成されている。また普段よりお食事中も静かな音楽をかけるなどしてゆったりとした環境作りに努めている。	玄関を整理整頓したことで、訪れる人が写真を撮ったり、綺麗になったと褒められた。評価時もテレビから知っている歌謡曲が流れた時には、利用者が体でリズムを取りながら一緒に口ずさんでいた。「いい歌ばっかり流れてくるね」と利用者同士で楽しそうに会話していた。中庭を挟んでお互いのリビングが見え、手を振り合っている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースにおいても、おひとりおひとりがソファーやテーブル席など思い思いの場所で過ごす事が出来ている。好きな空間で気の合う方や職員との談話を楽しまれたり、時には自室で休まれたりもしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご自宅で愛用されていた物や家具を持ち込んで頂いたり、テレビなどご本人様が居心地よく過ごせる空間作りに配慮している。	備え付けは、ベット、エアコン、棚、照明、カーテン。自宅で愛用されていた馴染みの物を設置している。家族が季節ごとに衣替えをしてくれる方、夏布団や冬布団を変えて、心地よく過ごしている。表札の裏が安否確認が出来るように工夫されていた。ドアの上部には、車椅子のマークが貼付していた。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は生活しやすいように明るくゆとりがあるくうかんが保たれている。安全面に配慮し、事故につながりそうな物の撤去など暮らしやすい環境作り、自立した生活が送れるように努めている。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：24,25,26）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：19,39）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：50）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：31,32）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：29）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙2）　　令和　7　年度　　作成日　令和 8 年 2 月 16 日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3590800185		
法人名	株式会社　エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム　装束門・みどりの家		
所在地	山口県岩国市装束町４丁目10-13		
自己評価作成日	令和 7 年 10 月 15 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3590800185-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山県岡山市北区岩井二丁目2ー18
訪問調査日	令和 7 年 11 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様にイキイキと生活して頂ける様、午前中体操やレクリエーションを行なったり、ウッドデッキに出て庭を眺めたり、お天気の良い日には個別対応にて散歩や買い物に出かけています。安心して過ごして頂ける様見守りを行いながらご参加頂いております。午後は居室に戻られ午睡されたり、テレビを見られたり、各々ゆったりお過ごし頂いています。また、洗濯物を畳んで頂くお手伝いお願いし、テーブルを拭いて頂いたり可能な限り出来る事をお手伝い頂き変化のある生活の提供をさせて頂きたく思っています。職員とも談話を行い一日の内、関わりを持つ様努めています。ケアでは主治医と連携してホームで看取りも行っています。職員研修も行います。近所の小学校や地域との交流があり、装束町で皆で支え合いながら運営しています。運営推進会議も近隣の多職種の方々が毎回参加して下さっており、ご近所からお野菜をお裾分け頂いたり、小学生が遊びに来てくれたり、地域の中に根差したホームとなってきている事を日々感じております。その事を継続できる様スタッフ一同邁進致したく思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

みどりの家グループの中で唯一の平屋作りとなっており、中庭を囲んで、お互いのユニットを見渡せる。夫婦の入居者がおられ、中庭を挟んでお互いのリビングから手を振り、リズムを身体で取り合い、お互いのコミュニケーションを深めていた。中庭のウッドデッキでは、夏には子ども用プールを使ってヨーヨー釣り、足を浸けて涼む。冬には2mの巨大なクリスマスツリーを飾り、職員の子どもたちがサンタさんとなり、プレゼントを手渡して季節感を楽しんでいる。今年から「ふれあいいきいきサロン」を始めたことで、地域との交流が深まり、初回は施設内見学をしたら、施設内を知って頂くきっかけとなった。理念は「笑顔で楽しく寄り添う介護」となっており、この言葉は職員全員で意見を出し合い、一人ひとりの意識の向上の決意に繋がっている。施設の周りには出掛ける場所が沢山あり、紅葉谷へ行ったり、蜂ヶ峰公園へ行ったりした。おやつ外出ではファミリーレストランに行き、神社に参ると顔馴染みなので、人数分のお餅を頂いた事でさらに縁が結ばれている。入居者は、洗濯物干し係、料理作り係、洗い物係がいて遣り甲斐が増している。歌を唄って楽しむ人やご夫婦が仲良くコミュニケーションを取り合う姿が、とても微笑ましかった。運営推進委員会の方々も積極的に協力して頂けるので、地域との協力や交流がさらに充実し易くなってきている。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	エポカケアサービスの理念を念頭に置いて、事業所として地域貢献や社会活動参加を目標に地域に密着出来る様に計画をしている。	理念は玄関、各フロアに掲示してある。グループホームの理念「笑顔で楽しく寄り添う介護」は職員で話し合い、多く意見が出た言葉を使って作られている。それによって一人ひとりの意識が高まり、ミーティングで毎回必ず確認することで、日々の介助に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前よりはコロナも落ち着いてきたとは言え、まだまだ注意が必要なので地域の方々との付き合いはホーム周辺の散策時などに挨拶をする程度である。	今年から地域の方々との交流を深める活動として「ふれあいいきいきサロン」の開催を始めた。グループホームの見学や認知症予防ゲームをして楽しんで頂き、更にどのようなところなのかを知ってもらうきっかけにもなっている。近所の神社で行われた神楽にも出掛け、入居者分のお餅を貰い、皆が大変喜んだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染なども考慮して地域の方々との交流も挨拶程度とさせて頂いている。装束地域での交流会も今後、包括支援センターや社協と連携して行う計画をしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の実施に伴い、その意義などを職員と共有し評価による結果と課題をご家族様などにも報告。課題も職員全員で取り組んだ。	外部評価でのステップアップの意見はすぐに取り入れた。今年から始めた「ふれあいいきいきサロン」はその評価を活かした取り組みである。それによって地域の方々との交流が多くなり、出掛ける際には、顔見知りとのふれあう場所が増えて、入居者にも喜ばれている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で入居者様やホームについての報告、それについてのご意見をミーティングなどで職員に共有し話し合い、改善に向けての取り組みを行っている。	参加者は篤志面接委員、民生委員、民生児童委員、岩国市議会議員、岩国地域包括支援センター、装束駐在所所長、入居者の家族、管理者。利用者状況、行事報告、ヒヤリハット、事故報告、研修報告を行っている。「事故後の対応策は、毎回変えて対応されておられるのでいいと思います」と意見を頂いていた。	
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議に参加して頂き、意見等を頂いている。また地域の方々との交流などの相談にも適切なアドバイスを頂いている。	窓口は、管理者か計画作成担当になっている。運営推進会議に市町村担当者が参加されているので、日頃から意見や相談に乗って頂ける関係性がとれている。今年から始めた「ふれあいいきいきサロン」でも沢山のアドバイスを頂けた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については会社の方針にも基づき、日中の玄関ドアの施錠は継続して行っておらず、又、毎月のミーティング時には定期的に研修を行い、拘束についての理解とケアの向上に努めている。	身体拘束委員会にて、身体拘束やスリーロックについて取り上げ、意識的な取り組みを行っている。その成果もあって、身体拘束を実施をしている実績はない。スピーチロックに関しては「ちょっと待って」、「動かないで」の言葉は遣わず、ちゃんと説明をするようにしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても毎月のミーティング時に定期的な研修を行い理解し、不適切なケアが行われていないかを職員同士で確認、改善の提案、早期対応が出来るような環境作りを行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用されている入居者様はいないが、ホーム内の研修時に組み入れて学べる機会を持ち、ご家族様などからの相談等にも対応出来るようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一緒に読み合わせを行い、丁寧に説明を行っている。必ず疑問点などを伺い、都度、納得されるまで説明し理解をして頂けるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している他に、各ユニットごとの直通電話に連絡を頂けるようお知らせをすると共に、頂いたご意見を運営推進会議等で報告を行い、助言等を運営に反映出来るようにしている。	今年から管理者から職員が担当することとした。それにより家族とのコミュニケーションや信頼関係が深まり、話や意見が聞きやすい関係になった。担当が対応するので、細かい状況報告や意見の反映が通りやすくなっている。計画書の説明時に、意見を聞く機会を設けており、玄関にもご意見箱を設置している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングやユニットごとのミーティング、申し送り時に意見交換などを行い、話し合い、運営に職員全員で取り組むようにしている。その他にも、管理者面談や本社顧問との面談もあり、意見や提案を聞く機会を設けている。	年に1回本社からの面接があり、アンケートを取り込んだ顧問との話し合いが行われている。普段からSNSを利用し、何かあればすぐに意見や相談が出来るシステムを設けている。月１回、全体ミーティングとフロアミーティングもあり、管理者は毎日の貴重な意見が飛び交う会話が、愚痴で終わらないよう心掛けている。	職員意見を聞き取り、解決策へ向かう工夫をしてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員は年1回の考課表を作成し、個人目標の設定や達成などを記入し、実績や努力を本社に報告している。また職員同士で相談や互いの意見交換、情報交換を通して知識などを学び合い、ケア向上ややりがいを持って仕事に取り組めるようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育には本社での新人研修の他にもチューター制度を取り入れて、働きやすいように取り組んでいる。また、毎月のミーティング時の研修などへの参加を勧めて個人のスキルアップを図っている。	新人教育は、本社での新人研修の他にもチューター制度を取り入れている。グループホームでは、職員に毎月の行事担当を分担することで、知識アップの育成に繋げている。責任感を持つことの大切さや理念にもある入居者や職員が一日笑顔で過ごせることを強く意識してもらう事を徹底している。	内部研修の機会を増やせるように、工夫をしてみてはいかがでしょうか。
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの事もあり機会が減ってはいたが、外部への研修への参加を勧めたり、他施設への見学、ZOOMを使用しての研修なども勧めてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様にお会いし、担当ケアマネも含めてお話を伺い、ご本人様の想いを尊重したケアプラン作成、入居後も安心して過ごして頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	16と同様にご家族様の想いと要望をよく伺い、ご本人様のホームでの生活を一緒に支えて頂けるように信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様やご家族様の想いを伺い、必要とされている支援を適切に提供出来るように努めている。また以前からの習慣だった事の継続や、伺った事を参考にして支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様との関係において職員側の一方的な関係ではなく、ホームでの暮らしを共にする者同士、敬い支え合い、関わりを大切にするよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より意見や要望等に耳を傾け、ご本人様との良好な関係を保って頂く事を大切にしつつ、共に支えていく関係の構築にも努めている。		
21	(9)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様と交流のあった方々との関わりを大切にし、面会や電話、お手紙などその都度の対応を支援している。	面会には家族や近所の人、友人が来られる。個人で携帯電話を持っており、普段から連絡をしている方もいる。本人の希望で、法事に参加されたり、誕生日に家で祝ってもらったりした方もいる。書いた手紙をポストに投函することもある。グループホームでは、積極的に外出を計画しており、紅葉谷へ出掛ける予定である。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を職員が把握しており、会話がスムーズになるように間に入ったり、トラブルになりそうな時も間に入り未然に防げるような配慮を行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後された後も、ホームへお電話や相談を頂いたりして良好な関係を保っている。又、ご紹介なども頂いたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様おひとりおひとりの思いや希望に耳を傾け、少しでも多くの情報収集に努めている。またそれをひとつでも実現出来るようにご家族様や職員が話し合い、計画をしている。	一人ひとりの思いや希望に耳を傾けて、情報収集をしている。職員が入居者を巻き込みながら、雑談をすることで、意見の汲み取りを工夫している。テレビを見ながら話す会話に「○○食べたいねー」という話があれば、誕生日会の料理に出したり、「牛乳よりコーヒーが好き」と聞いたら、コーヒーを出したりして、喜ばれている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報収集の他にも、日常の会話の中からその方のこれまでの生活歴や馴染みの物、習慣や生活環境を把握し職員間で情報共有するように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で毎日、申し送りを行い、情報共有の努めている。また急な変化にも職員全員で早く対応が出来るようにユニットごとの連絡ノートの活用など現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様とご家族様には説明の際に要望や意見を伺い、職員にはミーティング時に意見交換を行いプランに反映するように努めている。何かあればその都度、その方に寄り添ったケアの考案と介護計画を作成している。	各ユニットのリーダーがカンファレンス時に、家族やドクター、看護師、薬剤師の意見を参考に、ケアプランの作成をしている。入居時に暫定プランを作成し、何もなければ認定時に見直している。更新時が分かりやすいように、事務所のホワイトボードで管理し、職員が一目瞭然となるよう表記を変更した。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在、タブレット端末を使用して生活記録を行っている。ケアプランに基づいた記録を行い、気付きや特記事項、申し送りにも活用しながら情報共有を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化に伴い、新しく発生する入居者様やご家族様のニーズに対応出来るように、ひとつの考えにとらわれず、職員全員で柔軟な姿勢や対応を心がけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以降、地域との関わりが少なくなっていたが、地域との関わりを大切にしながら少しずつ地域住民の方々との交流、地域行事への参加を再開、継続していく。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変時や体調不良等には往診や電話での指示など対応をして頂いており、ご家族様も安心しておられます。ご家族様への連絡はその都度、職員が毎月のお便りや電話でお知らせしている。	かかりつけ医は、入居時に説明して、協力医に転医して頂いている。急変時や体調不良の際には、往診や電話で指示を頂き、対応がスムーズで家族も安心できる。緊急時は、主治医より直接、家族へ連絡されることもある。他科への受診は、基本家族が連れて行くが難しい場合は、施設で対応している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化やケアについての気付き、情報を職場内の看護師に伝え相談を行い都度、必要時に主治医に連絡を行うなど職員の不安軽減にもつなげている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は速やかにサマリーの作成を行い、情報提供に努めている。また入院中も管理者やケアマネ、他職員がご家族様や医師、病院関係者とも情報交換や相談などをこまめに行い、早期退院が出来るように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りや終末期、ご本人様がどうありたいかをお伺いし、ご家族様へもお伝えしている。ご家族様の意向も入居時に確認書を記入して頂き、都度、再確認をさせて頂いている。看取りの際は、ご家族様、医師と密に連絡を取り合い、状態に合ったケア提供を行っている。	入居時に「看取りに関する指針」や「看取りに関する確認事項」にて確認し、同意書を交わしている。1年ごとに家族への再確認の場を設けている。重度化した場合、直接ドクターから連絡をもらい、状態にあったケア提供していて、家族は安心して過ごせる環境にある。看取り時は、家族の要望により、居室にて一緒に過ごすことも可能である。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	事故防止と事故発生時の備えとして、定期的なホーム内研修で事故対応、応急救護について取り組んでいる。また、ヒヤリハット報告を日頃からあげて、事故防止に努めている。	研修はもちろん、起こった時には回覧にて、事故検討委員を開いて、今後の対応を話し合い、改善に努めている。ヒヤリハット報告を日頃から上げて、事故防止に努めている。地域包括支援センターの職員から「事故後の対応策は毎回変えて対応されておられるので、いいと思います。」との声も頂いている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震など災害時に地域での避難所になれるよう食料や備品の備蓄を本社と連携して進めている。また、自ホームとしての災害時マニュアルの作成も行っている。避難訓練等に運営推進会議のメンバーにも参加をして頂く等の地域連携にも努めている。	運営推進委員会議に参加されている人や消防署も交えて避難訓練を行っている。顔見知りなので、どのように避難していいかの確認が出来ている。グループホーム独自の災害時マニュアルを作り、それをもとに避難している。SNSを利用して近隣の職員がすぐに駆けつけれるように対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日のケア提供時に不適切なケアが行われていないかの自己チェックや、職員間での声かけ、定期的な研修で虐待防止などについて学び、ケアの向上に努めている。	年に1回接遇やプライバシー研修を行っている。オムツ交換時は、周りに配慮して、居室にて行っている。失敗時はプライドを保つような言葉を掛け、尊厳を損なわないようにしている。評価時も職員が「洗濯物干してくれますか」と入居者の目線に合わせて、丁寧に言葉をかけていた様子が、個人の存在への敬意が感じられた。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者様主体のケア提供を心掛けている。自己決定が出来るような関係作りと、生活環境作りに取り組みひとつでも多くの希望を聞き、実現出来るように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のコーヒータイムに入居者様と当日の職員が一緒にコーヒーを飲みながら談笑し、今日をどのように過ごしたいか希望をお伺いし、希望に添った支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服選びを一緒にしたり、定期的な理美容時にカットや髪染めを楽しんでおられる。また、ご家族様の持参されている化粧水などもお声掛けし使って頂いている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューやお誕生日や敬老の日などの特別な日も食べたいものの希望をお伺いし、状態に合った食事提供をすることを心掛けている。また、おひとりおひとりの好みや力を活かして一緒に調理や片付けも行っている。	食事中には、「美味しいですか」と聞くと、「美味しいよ」と元気よく返事が返ってきた。「箸の使い方が上手ですね」と言うと「ハハハ」と笑って嬉しそうな姿が見れた。ホットプレートを使ってお好み焼きをした時には、焼く人、おむすびを作る人と係を決めて、楽しく一緒に調理をした。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おひとりおひとりの体重や状態により適切な提供を心掛けている。食事量や水分量は毎食チェックし記録を行っている。体調不良や食事量、水分量の低下など医師への相談も行っている。入居者様に応じ、きざみ食やミキサー食、とろみ等の工夫をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝前だけでなく、食後に歯磨き、うがい、口腔スポンジによる口腔ケアを行い、義歯の方は就寝前には洗浄液への浸け置きも行っている。また、必要に応じて歯科受診等も行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おひとりおひとりの排泄について、間隔や傾向を把握し、適切な声掛けや誘導を行うことにより失敗を防ぎ、入居者様の尊厳を守れるよう支援を行っている。また、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	その人に合わせたタイミングで言葉掛けをしている。拒否される方へは、時間を変えて対応している。入居者のほうから「便所行こ」と職員へ声をかけ、トイレへと連れて行かれた方も見れた。グループホームでは、可能な限り、トイレでの排泄を支援しているので、率先してトイレに行く姿が見受けられた。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘への予防としてヨーグルトやオリゴ糖の摂取を試みている。また、水分摂取や毎日の体操、ストレッチにも留意している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、午前中の入浴が主とさせて頂いているが、その日の体調、希望などご本人様と相談させて頂いて時間をずらす等、配慮させて頂いている。また、強要はせずご本人様の想いを尊重するように努めている。	3日に1回、午前中に入浴となっている。その日の体調、希望に合わせて、本人と相談して対応している。入浴剤を使用して皮膚の乾燥を防ぐ工夫もしている。ゆず湯をして、季節を感じて頂いたり、歌を歌われたり、リラックスして入浴を楽しまれている。勤務体制に応じて、夜間入浴も可能としている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態や希望に応じて居室で休んで頂いたり臥床して頂く等、配慮している。夜間不眠の方へはじっくりお話を伺ったり、温かい飲み物の提供などを行っている。高齢化に伴い、ご本人様の生活スタイルに合わせた起床、就寝時間等を変更している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい処方のあった際は申し送りや伝達ノートで情報共有をしている。またミーティング時などで処方薬と症状について報告し合い共有している。往診時やそれ以外でもこまめに主治医やナースと症状の変化について報告、相談等を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様おひとりおひとりの生活歴や趣味、嗜好などを把握し役割としてお願いしたり、知識を教えて頂いたり、ハリのある生活を送って頂けるよう支援を行っている。洗濯物干しやたたみは毎日やって頂いている。	「洗濯物を干してくれますか」と職員が言葉掛けすると「うんうん」と頷いてウッドデッキに移り、ベンチに座ってタオルを一枚一枚丁寧に干していた。干し終わってリビングに帰ってきた姿は、にこやかな顔をしながらも誇らしげであった。職員が「ありがとうございました」と丁寧にお礼を言い、そのやり取りにとてもほっこりした。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナも以前より落ち着き、少しずつ外出支援も再開している。季節ごとのドライブや買い物に加え、近所の散歩やおやつ外出なども行い外出を楽しんで頂けるように支援している。	「今しか出る時ないよ」と言葉をかけて、外出するように促している。季節毎のドライブや買い物にも出掛けている。評価時も午後から紅葉谷へ出掛ける予定であった。５月には蜂ケ峰にバラを見に出掛けたり、おやつ外出としてファミリーレストランに出掛けたりしている。ウッドデッキでは、バーベキューをしたり、冬にはクリスマスツリーを飾って楽しんでいる。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームでのお金の所持はして頂かないようにしており、必要な物はご家族様と相談して立替という形で購入させて頂いている。外出支援での買い物時などはお金をお渡しして、支払いをして頂いたりすることもある。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にユニットごとのホームのスマートフォンの番号を教えて、会えない時もお話が出来るように支援している。また、お手紙を書かれる方は、書かれたものを一緒に郵便局やポストに投函しに行ったりしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の整理整頓はもちろん、玄関やフロアに季節の花を生けたり、季節ごとの壁飾りなどは入居者様も一緒に作成されている。また普段よりお食事中も静かな音楽をかけるなどしてゆったりとした環境作りに努めている。	玄関を整理整頓したことで、訪れる人が写真を撮ったり、綺麗になったと褒められた。評価時もテレビから知っている歌謡曲が流れた時には、利用者が体でリズムを取りながら一緒に口ずさんでいた。「いい歌ばっかり流れてくるね」と利用者同士で楽しそうに会話していた。中庭を挟んでお互いのリビングが見え、手を振り合っている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースにおいても、おひとりおひとりがソファーやテーブル席など思い思いの場所で過ごす事が出来ている。好きな空間で気の合う方や職員との談話を楽しまれたり、時には自室で休まれたりもしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご自宅で愛用されていた物や家具を持ち込んで頂いたり、テレビなどご本人様が居心地よく過ごせる空間作りに配慮している。	備え付けは、ベット、エアコン、棚、照明、カーテン。自宅で愛用されていた馴染みの物を設置している。家族が季節ごとに衣替えをしてくれる方、夏布団や冬布団を変えて、心地よく過ごしている。表札の裏が安否確認が出来るように工夫されていた。ドアの上部には、車椅子のマークが貼付していた。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は生活しやすいように明るくゆとりがあるくうかんが保たれている。安全面に配慮し、事故につながりそうな物の撤去など暮らしやすい環境作り、自立した生活が送れるように努めている。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：24,25,26）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：19,39）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：50）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：31,32）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：29）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない